

第5章

未来を拓く継承と発展

[1] MIRC (モラロジー国際救援運動推進委員会)の事業を統合

① モラロジーの精神に基づいた支援活動

平成20(2008)年4月、麗澤海外開発協会(RODA)は、それまで28年間にわたって国際救援活動に取り組んできたMIRC(モラロジー国際救援運動推進委員会)の事業を統合しました。

MIRC発足の端緒となったのは、昭和50(1975)年のベトナム戦争終結に前後して発生したインドシナ難民に対する救援運動です。ベトナム、ラオス、カンボジアにおける共産主義政府の樹立によって、膨大な難民が国外へ流出し、深刻な国際問題となりました。これらの難民に対して、国際機関をはじめ世界各国から人道的な救援の手が差し伸べられました。モラロジー研究所(現・モラロジー道德教育財団)では、全国の青年が中心となって募金活動などの救援運動を展開し、同研究所内に「インドシナ難民救援運動事務局」を設立しました。それが後にMIRCへと発展したのです。

総合人間学のモラロジーを創建した廣池千九郎博士(法学博士・1866~1938)は、青年教師時代から、災害が起こるといち早く行動を起こし、率先して罹災者の救援活動に従事しました。罹災者だけでなく、病人や孤児など弱者に対する廣池博士の献身的な援助は、生涯を通じて変わることはありませんでした。その著書『道德科学の論文』に「臨時の慈善事業、たとえば、天災・地変・戦争・流行病等にて一般人の困難せる場合にあたりては、無条件をもって物質的救済をなすことは人道上当然のことであり



バングラデシュ

ます」と記されているように、人々を苦しみの中から救済するという抜苦与楽の思想、慈悲心がモラロジーの根幹となるものです。

MIRCは、麗澤海外開発協会と同様にこのモラロジーの精神に基づき、難民問題だけにとどまることなく、開発途上国への教育・生活支援など、世界の各国で過酷な状況に置かれている人々に対する支援活動を進めてきました。

麗澤海外開発協会では、このMIRCの事業を統合し、MIRCが校舎を建設したカンボジアでの2校の小学校(ترام・クラ小学校とトム・オー小学校)への支援も引き継ぎ、今、モラロジー団体としての海外協力活動のいっそうの活性化に努めています。



タイ

② MIRCが建設したカンボジアの小学校への支援を引き継ぐ

① ترام・クラ小学校の校舎・トイレ棟・配水システム

2004(平成16)年、MIRCはシャンティ国際ボランティア会(SVA)の協力を得て、カンボジアのコンポントム州コンボン・スヴェア郡の ترام・クラ小学校に校舎(3教室等)を建設しました。前年の12月に着工してから順調に工事が進み、2004年3月には校舎、トイレ棟、配水システムが完成しました。そして、備品等が整った4月から新教室として使用されています。

2005(平成17)年2月25日行われた贈呈式には、MIRCの第1回カンボジア・スタディツアーの一行も出席し、小学生たちとの交流も行われました。



新しくなった ترام・クラ小学校の校舎



児童たちの表情も明るく

② トム・オー小学校に校舎を建設——6学年の完全校に
MIRCでは、トラム・クラ小学校建設の後、引き続き学校建設事業を展開するために「カンボジアに学校を贈ろう！」キャンペーンを実施。2007（平成19）年に、同じコンポントム州のサンダン郡トム・オー村に2校目の校舎を建設しました。同年9月、MIRCの第4回スタディツアーの一行がトム・オー小学校を訪れ、伝統儀式に則った学校建設の地鎮祭に参加しました。

半年後の2008（平成20）年3月には、校舎の竣工式および贈呈式が行われ、第5回スタディツアーの一行が同小学校を訪れ、これらの式典に参加しました。州知事夫妻が臨席し、村人や関係者300名以上が参加しました。式典後の記念会食では、村人手作りの料理が振る舞われ、新校舎の完成を心から喜ぶ村人の気持ちが伝わってきました。

当初40名で3学年までだったトム・オー小学校は、この校舎の完成によって、3年後には6学年までの完全校となりました。



式典に参加したトム・オー小学校の児童たち



麗澤海外開発協会のこれまでの歩みや「プアン」の活動を紹介（第1回チャリティーコンサート）



出演者みんなでフィナーレ（第1回チャリティーコンサート）

[2] アジアの子供たちへの教育支援をめざしたチャリティーコンサート

第1回 チャリティーコンサート ～アジアの子供たちに学校を!!

平成20（2008）年9月28日（日）、麗澤海外開発協会主催による初めてのチャリティーコンサートを千葉県市川市の行徳文化ホールにおいて開催し、約380名の方々が来場されました（協力：麗澤大学サークル「プアン」／後援：財団法人モラロジー研究所、麗澤大学、麗澤中学・高等学校）。

第1部では、当協会ならびに麗澤大学ボランティアサークル「プアン」の活動紹介と、当協会の竹原茂理事のご家族による発表、第2部では5組のアーティストによる音楽コンサートを行いました。会場では多くの方々にタイの民芸品の購入や寄付金の協力もいただき、本会における収益金はタイ北部の子供たちの教育施設への運営支援およびラオスのタート・インハン小学校の図書館建設等に活用することができました。

第2回 チャリティーコンサート ～アジアの子供たちに教育支援を

第2回チャリティーコンサートは、「アジアの子供たちに教育支援を」を目的に平成23（2011）年12月3日（土）、東京都千代田区立内幸町ホールにおいて開催、当日は雨天にもかかわらず約200名の方々が来場され満席となりました（協力：麗澤大学ボランティアサークル「プアン」「RISOVP（リソップ）」／後援：千代田区、公益財団法人モラロジー研究所、麗澤大学、麗澤中学・高等学校）。

第1部では、当協会ならびに麗澤大学ボランティアサークル「プアン」と「RISOVP」の活動紹介が行われ、第2部ではアマチュアオーケストラ「麗しの森アンサンブル」によるクラシックの名曲とクリスマスメドレーの演奏と「フレーベル少年合唱団」による合唱が披露されました。

また、エントランスホールでは国際協力活動に関する展示が行われ、タイ、ラオス、ネパールの民芸品の購入や寄付金にもご協力をいただきました。本公演の収益金は、タイ、ラオス、カンボジア等、アジアの子供たちの教育支援に活用することができました。



大評判だったフレーベル合唱団（第1回チャリティーコンサート）



「プアン」による発表（第2回チャリティーコンサート）



エントランスホール（第2回チャリティーコンサート）



エントランスホールでの展示と民芸品等の販売（第2回チャリティーコンサート）

第3回 チャリティーコンサート ～アジアの子供たちに教育支援を

第3回チャリティーコンサートは、第2回に引き続いて「アジアの子供たちに教育支援を」を目的に平成26(2014)年12月7日(日)、東京都・千代田区立内幸町ホールにおいて開催、150名の方々が来場されました(協力:麗澤大学ボランティアサークル「プアン」[RISOVP(リソップ)]/後援:公益財団法人モラロジー研究所、一般社団法人日本道経会、麗澤大学、麗澤中学・高等学校)。

第1部では、設立以来40年以上にわたる当協会の歩みと当時の活動内容を映像で紹介、第2部の「心をつなぐコンサート」では、最初に麗澤高等学校吹奏楽部「サクसानサンブル」が、トークを交えながらクリスマスメドレー等を演奏、続いてコーラスグループ「AIM Singers(エイム・シンガーズ)」の合唱、最後に「フレール少年合唱団」の合唱が披露されました。子供たちのかわいいコーラスに自然と手拍子が起こり、参加者の表情も自然とほころんでいました。

また、エントランスホールでは、麗澤大学ボランティアサークル「プアン」と「RISOVP」の協力のもと、海外支援活動に関する展示とタイの少数民族やラオスでの手作り品の販売も行われ、これらのイベントを通じて、参加した多くの方々に海外協力の意義と当協会の活動を理解していただき、多くのご支援をいただきました。本公演の収益金は、タイ、ラオス等での教育支援に活用することができました。



麗澤海外開発協会の歩みと活動内容を
紹介(第3回チャリティーコンサート)



多くの方々にご来場いただきました
(第3回チャリティーコンサート)



麗澤高等学校「サクसानサンブル」
(第3回チャリティーコンサート)



海外支援活動の展示とタイ、ラオス
での手作り品の販売も行われました
(第3回チャリティーコンサート)

[3] アジアからの留学生を招聘

麗澤海外開発協会(RODA)では、竹原茂前副会長の名を冠した「竹原基金」を創設して、平成26(2014)年から留学生を招聘して麗澤大学別科日本語研修課程で学びました。令和2(2020)年に麗澤大学別科日本語研修課程での募集が終了したため、留学生招聘事業は休止されましたが、この6年間でラオスから5名、ネパールから1名の留学生を招聘できました。招聘された留学生は、日本語や日本文化、歴史、生活習慣等を学び、自身の学力向上において大きな成果を上げました。

留 学 生					
	氏 名	年齢	性別	国 名	留学期間
1	ウドムスック・スリントーン	19	男子	ラオス	2014年3月 ～2015年2月
2	サイヤリン・プッタソーン	22	女子	ラオス	2015年9月 ～2016年8月
3	ブンタヴィー・サイヤー	22	男子	ラオス	2016年9月 ～2017年8月
4	ルアンアパイ・ハナコ	20	女子	ラオス	2017年9月 ～2018年8月
5	バラミ・イッチャ	19	女子	ネパール	2018年10月 ～2019年8月
6	カムウォンサー・ウンニカー	20	女子	ラオス	2019年9月 ～2020年8月

(年齢はいずれも留学時)

ウドムスック・スリントーンさん

●2014年3月～2015年2月

ウドムスック・スリントーンさんは、ラオスの首都ビエンチャンの近郊の町で生まれ、通っていた小学校は日本か



麗澤大学別科日本語研修課程
秋学期入学式(2014年9月10日)



麗澤大学別科日本語研修課程
修了パーティー(2018年8月3日)



「伝統の日」に出席した麗澤大学生と
ポーズ!(2018年6月2日)



ウドムスック・スリントーン さん

らの援助を受けており、小さいころから日本には親近感と憧れをいただいていた。そのことから、日本語を学びたいという強い意志もあり、大学も日本語学科を選んだということ。

スリントーンさんは、2014年4月末に開催された麗澤大学留学生歓迎懇親会では、留学生を代表して次のようにスピーチしました。

「私は、これから麗澤大学の別科日本語研修課程で一年間、日本語を勉強します。私の国ラオスの正式名称は『ラオス人民民主共和国』です。公用語はラオス語です。首都はビエンチャンです。ラオスはベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国に国境を接しています。ラオスには、豊かな天然資源があり、仏教を信仰する人が多く、昔から残っている建物や伝統的なお寺などもたくさんあります。赤道に近いので、とても暑い国です。季節は二つあります。雨季と乾季です。ラオス人は、いつも笑顔で親切な人が多いと思います。そして、自分の文化や習慣などを今でも守り続けています。

日本は、ラオスに多くの支援をしている国の一つです。例えば、私が勉強していた小学校も日本から援助を受けています。その影響もあって、私は日本に興味があって、日本語を勉強することを決めました。日本語を勉強できて、とてもうれしいです。麗澤大学で留学生として日本語を勉強できるのは、私にとって大きなチャンスです。

私の目標は、自分の日本語の能力を向上させることです。この一年間、その目標達成のために、一生懸命日本語を勉強することと日本の文化や生活への理解を深めます。そして、いろいろな国の友だちとお互いに文化や考え方などを理解して交流し、ラオスへ帰ったら日本での経験を役立てたいと思います」

サイヤリン・プッタソーンさん

●2015年9月～2016年8月

サイヤリン・プッタソーンさんは、ラオスの南部サワンナケート県出身です。留学中は麗澤大学内の学生寮で、日本人の学生や留学生と一緒に共同生活を送りました。友人からは「りんちゃん」の愛称で呼ばれ、寮生活を楽しみました。生活していた学生寮はとてもきれいで、また、キャンパス内の樹木はラオスで見かけないものが多く、とても新鮮に感じたそうです。

寮での食事は自炊でした。ラオスでは海水魚が高価なので、サンマや鮭などの海水魚は初めて口にするものばかりで、「とても美味しい」と感想を述べてくれました。

麗澤大学在学中には、日本語の研修のほかに、日本の文化や生活など多くのことを体験し、将来はラオスと日本の架け橋になれるよう期待されています。

「日本語を勉強するきっかけは、子供のころ、日本のドラマやアニメを見たことです。このころから日本に興味を持ち、日本語を学びたいと思いました。江戸時代のドラマ、特に忍者や侍の映画が好きで、一度日本に行ってみたいと思っていました。

私の将来の夢は大学院に進学し、ラオスで日本語の教師になることを考えています。ラオス人に日本語を教えたいと思っています。また、日本語能力試験N1に合格したいと思っています。

麗澤大学で留学生として日本語を勉強できるのは、私にとって大きなチャンスなので、麗澤大学で一生懸命勉強して、日本語能力を向上させ、それから、日本文化や生活への理解を深めたいと思います。そして、いろいろな国の人たちと友だちになって、一緒に新しい経験をし、いろいろな国の文化も学ぼうと思います。そうして、ラオスに帰ったら、日本語を勉強した経験を役立てたいと思います」



サイヤリン・プッタソーン さん



ブンダヴィー・サイヤー さん

ブンダヴィー・サイヤーさん

●2016年9月～2017年8月

ブンダヴィー・サイヤーさんは、ラオス北部のウドム・サイという町の出身です。サイヤーさんは日本語への学習意欲がとても旺盛で、ビエンチャンでは大学での授業のほかに日本料理店でアルバイトをしながら積極的に日本語を学んでいました。また、アルバイト先には日本人のみならず、各国の人たちが来店するので、日本語や英語で対応していたそうです。各国の人たちと積極的に話してみたいという下地があったので、麗澤大学の学生寮に入寮してからもすぐに各国の学生たちとも打ち解け、友だちを増やしました。

「何でもあって便利な日本に留学することができるのは、とても有り難いことだと感謝しています。私は将来、日本語の先生になり、ラオスと日本の架け橋になりたいと思っています。ラオスで日本語を3年間勉強しましたが、実際に日本人と話すチャンスが少なく、教科書だけで学ぶのは、もの足りないと思い、いつか日本へ留学して実際に日本の文化を体験したい気持ちが強くなっていました。このたび、夢がかない1年間、麗澤大学の別科日本語研修課程で学ぶことになりました。1年間というのはとても短いと思いますが、一生懸命日本語を勉強して、日本の文化もたくさん体験しようと思っています。また、日本人や他の国から来た人たちとも友だちになって、楽しい生活をし、勉強も頑張ろうと思っています。帰国までに日本語能力試験のN2、N1を取りたいと思っています」

ルアンアパイ・ハナコさん

●2017年9月～2018年8月

ルアンアパイ・ハナコさんは、ラオスのビエンチャンの出身です。名前のハナコは、お父さんが旅先で病気になっ

たときに助けてくれたのが日本人だったことに感謝し、娘にはぜひ日本名を付けたいと願っていたことによります。ハナコさんも、小学生のころからアニメを見て日本に興味を持ち、日本語の勉強を始めました。高校進学に際して日本語の勉強を中断したこともありましたが、大学進学の際にお父さんから「日本語をもう一度、勉強したらどうか」と言われ、ラオス国立大学の日本語学科を受験して見事に合格しました。さらに2年生の学年末には日本への留学試験にも合格し、麗澤大学に留学することになりました。

「麗澤大学での授業はかなり難しく、テストもたびたび実施され、宿題も多く出されて、大変なこともあります。先生方は懇切丁寧に指導して下さり、図書館も充実していて、勉強するには最適な環境にあるということです。また、学内に新しい寮が完備され、6人のユニットルームにはリビング、キッチン、シャワーが完備され、快適に生活できます。さっそく日本人の友人もでき、日本語の分からないところを教えていただき、とても充実した留学生活を送っています。

日本のさまざまな場所に行って日本の歴史・文化を勉強し、日本の生活を体験し、日本と麗澤大学でのよい思い出をつくりたいと思います。ラオスには、日本のことが好きで、日本語を勉強したい人がたくさんいます。しかし、日本語を教える教員が足りません。私は、日本語を学びたい多くのラオス人に役立つために、将来は日本語の教師になりたいと願っています」

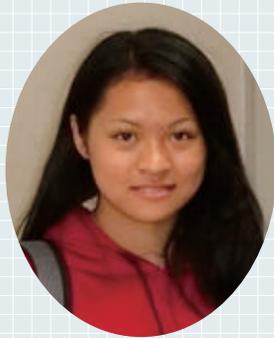
バラミ・イッチャさん

●2018年10月～2019年8月

バラミ・イッチャさんは、ネパール首都カトマンズの出身です。高等学校を卒業し、麗澤大学別科日本語研修課程修了後は日本の大学に進学する予定です。



ルアンアパイ・ハナコ さん



パラミ・イッチャ さん

「私は父から麗澤大学を紹介され、私の夢を叶えるチャンスをお父さんに感謝しています。私の夢を叶えるために、この一年はとっても大事な一年だと思っています。私は、二つの目標を持っています。一つ目は、日本語能力を高めることです。二つ目はネパールの大学にはない日本の大学で栄養学を学び卒業することです。私は栄養学を学べる大学に入るために勉強しています。大学卒業後は、ネパールに帰国し日本で学んだ栄養学の知識と経験を生かして、ネパールに貢献したいと思っています。そして、母国ネパールと日本をつなぐ架け橋になりたいと思います」

カムウォンサー・ウンニカーさん

●2019年9月～2020年8月



カムウォンサー・ウンニカー さん

カムウォンサー・ウンニカーさんは、ラオスのビエンチャンから来日しました。

「私の目標は日本語の教師になることです。ラオスには日本人が少ないので、日本語で話す機会がありません。日本語能力を高めるために日本へ留学したいと思いました。ラオスで日本語は、英語や中国語ほど人気がありません。『専門は何ですか』と尋ねられたとき、『日本語です』と答えると、びっくりした顔をされます。日本語を学ぼうと思ったきっかけは『僕のヒーローアカデミア』という漫画に出会ったことです。

留学の目標は、ラオスでできない経験をして、日本語能力試験N1に合格することです。昨年(2019年)12月に北海道に旅行し、生まれて初めて雪を見て感動しました。この春には関西を回り、伊勢神宮をお参りすることを楽しみにしています。

この一年間、頑張って勉強して、日本人とたくさん話して、日本人と友だちになって、日本にいるからできることをして、自分の目標を達成できるように頑張ります」

昭和46年3月16日 制定
平成25年4月1日 改定

一般財団法人 麗澤海外開発協会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般財団法人麗澤海外開発協会と称し、英文ではReitaku Overseas Development Association (略称「RODA」と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を千葉県柏市に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、開発途上国において文化・経済の発展に協力するため、国際協力活動を通じて、世界の平和、人類の安心と幸福の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 地域開発及び交流活動に関する事業
 - (2) 災害緊急支援に関する事業
 - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項各号に規定する事業は、日本及び海外において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書